

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790200103
法人名	医療法人社団厚仁会
事業所名	グループホームこうじん
所在地	香川県丸亀市松屋町11番地1
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 1 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3790200103-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 12 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物の共有スペースのリビングは、天井が高く天窓があり、お天気など外の様子を感じることが出来ます。建物内で過ごすことが多くなくても、開放感のあるところで気持ちよく生活していただけます。感染症の予防に配慮しながら、ご家族様とリビングの大きな窓越しに会うことができます。ホームの敷地は商店街近くの道路に面しており、プライバシーが守られながらも町の雰囲気を感じることが出来ます。協力医療機関が併設しており、24時間体制で、医療・看護が受けられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

天井が高く広々としているリビングは、利用者の笑い声や大きな語り声が響いているわりに、静かで穏やかである。何から何までやりすぎないことに徹していて、車椅子で自走する姿を優しく見守り、食事は、100%介助するのではなく、スプーンに適量とって、確実に手に握らせ、本人が自力で口に運べれるよう、基本的な自立支援をしている。また、地域に恵まれていて、商店街の方との縁も深く、プライバシーが守られた町の雰囲気を肌感じられる。これも医療と合わせて、地域に根付いた介護に繋がっているからであろう。職員間でのシフトも自立支援と同じく、職員発動で職員が職員を活かす組み方に変えたことから、任せて成果を生む組織ができていた。評価員の「美味しいですか?」という投げかけに「美味しい!」とすぐさま利用者から返ってきた。すべてこの言葉に答えが含まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心・笑顔・気配り」の理念に基づき、これを実践につなげられるよう、毎日のミーティングや毎月の勉強会を通じて業務のふりかえりを行っています。	開設当初、初代理事長が決めた理念を書道で執筆されていて、廊下、リビング、事務所に掲示されている。職員が出勤したら、「おかえり」という挨拶が利用者から投げかけられ、ここが自宅という感覚になりきり、今は大切な自分の家にいるのだからという気持ちで、仕事に取りかかっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策をとりながら、すぐ横の商店街の行事に参加しています。窓ごしに、近隣の方とのコミュニケーションも図ることができます。	地域の道路を通る際に、挨拶は欠かさない。町内会で、ゴミ掃除に参加し、商店街の化粧品屋にごみ袋を買いに行き、花屋と情報交換をするくらい顔馴染みの関係となっている。自治会長、民生委員が近隣にいますので、顔を合わせる機会が多く、最近では災害対策について話した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員さんへ運営推進会議の書類をおもちしたりする折に、認知症についての情報提供をさせていただいたり、情報を教えていただくこともあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日ごろのホームの様子について、会議の書類をおもちしたりする折にお伝えしています。また、お電話を通じてお知らせもしています。そして、ご意見をうかがっています。	コロナ前には、商店街とのコラボ企画で、利用者が役割を達成したら、商店街からご褒美券を発行して、お店に持っていきと品物に交換できる案を頂いたこともある。リビング内に商店街を作ってみたらどうか？の案もある。七夕の飾り付けの依頼があり、飾り付けの手伝いをした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に運営推進会議の書類をおもちする時にお話しさせていただくようにしています。随時、お電話でアドバイスをお願いすることもあります。	認定調査の際に、食事の盛りつけを褒めて頂き、「自分で食べれるスプーンがあるよ」との情報も頂いた。窓口は、管理者で、コロナ前は、市主催のま～の会の研修会や勉強会にも参加していた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	効率中心の介護となり拘束につながっていかないように、勉強会を通じ認識を深めるようになっています。業務内容の見直しも同時に行ない、拘束のないケアに取り組んでいます。	安全面に配慮し、グレーゾーンに関しては、基本はしない。委員会は毎月実施していて、相手の気持ちに合わせた言葉かけを実践している。最近では、車イスの方のケアについての話し合いをした。夜間は安全面に配慮して、玄関のみ施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通じて虐待防止について学んでいます。医師からお話をきいたり、介護、接し方についてふりかえりを行い、考えながらケアを行うようになっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センターや社会福祉協議会からアドバイスをいただきながら、地域の皆様やご家族様等に情報提供ができるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、必要に応じて医師に同席していただき、内容について丁寧に説明するように努めています。分からないことは、気軽に連絡していただくようお声をかけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに来ていただいた時に、お話をさせていただいたり、お電話でもその都度ご意見をお聞きしています。個人情報保護に気をつけながら、かかりつけの医師を通じる等ご意見を把握しています。	コロナ禍で電話で意見を聞いていたが、最近はコロナ禍が少し収まったので、玄関先やリビングの窓越し面会からの直接意見も増えつつある。頻度が多い方で1週間に1回。最近は消耗品について話し合った。利用者の状況を細かく説明すると情報量が増えてきている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろから、気軽にお話ができる雰囲気づくりに努めています。勉強会や毎日の朝礼を通じて定期的に提案等をお聞きする機会を設け、ケアや業務に反映しています。	管理者はリラックスして世間話をしながら、職員の話も聞いている。ゲートキーパー役の職員がいて、勤務表の作成に一役買い、管理者への情報もよく入る。休暇も取りやすい環境で、職員間同士、何でも話ができている。	職員意見は反映できているが、介護の質を上げるために、見えないところを特に見えるようにしてははいかがでしょうか？
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を通じて勤務の状況やお悩みごとの相談等ができるようにしています。日ごろから気軽にコミュニケーションがとれるよう、代表者や職員相互で声をかけ合うようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	インターネットを使用した研修を準備したり、代表者から情報提供を行い、職員のスキルアップが図られるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	専門誌の購読を通じて、他事業所の取り組みを知る機会をつくっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個人情報の保護に気をつけてご本人様ご家族様の許可を得ながら、ご入居前のご担当の医師やケアマネージャーさんからもお話をうかがうようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の情報等をもとにしながら、お話していただきやすいように、その時のお気持ちによりそいながら、お声をかけるように気をつけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでの生活について、丁寧にご説明しご要望や実際の心身及び社会的な状況がサービスの導入にあたり妥当かどうか慎重に選択していただけるよう配慮しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでおこなわれてきた人生に敬意をもちながら、その先輩としてのご経験から学ぶ姿勢も明らかにしながら関係を築くように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様をよく知っているのはご家族様であり、ご本人様の要望を代弁していただいています。ケアがホーム内の資源だけで完結しないようにご家族様と協力しながらケアにあたっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	対面やお電話のお取次ぎやお手紙のやりとりのお手伝いをしています。	手紙を頂くと喜んで、「返事を書いていい？」という言葉も頂いた。商店街の方やリハビリに行った際のドクターと世間話も頻繁にしている。病院の向かいにある幼稚園が馴染みの場で、コロナ前は、園児がクリスマスの行事にも参加してくれていた。	馴染みの人や場所をもっと増やしてみたいか？
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いっしょに日常の作業をしていただいたり、入居者様相互にコミュニケーションがとれるようにお手伝いし、相談のし合いをする等していただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院される等でホームを出られてからも、情報の管理に気をつけながら、ご本人様ご家族様の同意の上、入院先のご担当者と連携を図るようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	もの忘れの進行や機能の低下によりご意見が表明しづらくなっていることが多いので、情報の保護に気をつけながら、ご家族様等関係者のお話も丁寧におききして把握に努めています。	相手の気持ちや認知症の度合いに合わせた言葉かけをしている。思いを言えない方には、家族に相談している。お風呂でリラックスした際に、意見がやすく、夜間のリビングで、ソファに座り、思いを聞くこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様等関係者の皆様がお話してくださりやすい雰囲気をつくり、気軽にお話しいただけて情報の把握ができるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的カンファレンスを通じて現状を把握し、その共有を図り、よりよいケアにつなげられるようにしています。また、毎日のミーティングを通じ把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制のモニタリングを通じて、個別により深く課題について認識し、話し合いにもつなげられ、現状に即した計画が作成できるようにしています。	介護計画は、入所前と3ヶ月に1回修正し、何かあればその都度毎に修正している。モニタリングは毎月、何かあれば手厚く介護ができるという面から、担当制を敷いて対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録と計画の内容とが項目番号により把握できるようにしています。申し送り時にも、この記録をもとに丁寧に情報共有を行い、計画の見直しにつなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医師やリハビリ担当者等の専門家のアドバイスを受けながら、ホーム内だけでなく併設の病院や通所リハビリ等と協力し、柔軟な対応ができるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	管理栄養士等の資源を活用しながら、もともと食にかんするお仕事なされていた入居者様のアドバイスをうかがい食事が楽しみになるようにする等しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の病院以外の専門の医療機関とも協力しながら、入居者様にとり適切な医療の提供が受けられるように支援しています。	かかりつけ医は、法人内の病院に変更する人がほとんどで、継続した医療を受けている。母体が病院なので、24時間365日対応して頂いている。他科は(眼科、歯科)、家族が連れて行き、コロナ前は、訪問マッサージをしている人もいた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携ノートにより、毎日の状況を医師にご報告しています。また、何か変化がある場合は、その都度医師、看護師にご相談、受診等の対応につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご本人様、ご家族様の許可を得ながら、個人情報の保護に気を付けて、情報の共有を行っています。普段から医師、看護師とのコミュニケーションを大切にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご契約の際に、重度化の際のケアについてご説明しています。ご本人様、ご家族様のお気持ちに配慮しながらアンケートにご協力いただき、お考えについて把握するように努めています。	看取りはしているが、母体の病院へ入院される方が多い。終末期に向けて、アンケートを取っていて、今はわからないという項目に○をする人が多く、その時の気持ちを一番大切にしながら気持ちに添えていて、経過によっては、アンケートはその都度実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を通じて事故発生時の対応についてマニュアルの確認や資料を読み、スキルアップを試みています。医師からアドバイスを受けることもあります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の連絡体制について、地域の方と確認を行っています。ホームの駐車場が地域の避難場所となっており、近隣の皆さんとともに安全の確保ができるようマニュアルを確認しています。	年2回地震、高潮を想定した訓練をしていて、避難経路は玄関横に、リビングの事務所に連絡網を掲示している。場合によっては、ラインやメールも活用している。備蓄は、病院で1週間分保管し、自家発電もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会を通じて人権について、認識をするよう確認を行っています。人生の先輩として尊敬の念をもって対応するよう、職員どうし声をかけ合いながら、ケアにあたっています。	呼称は、苗字に「さん」付け。旧姓で呼んだ方が反応がいいときもある。排泄失敗時、「今日は寒いのでお風呂に入りましょう」、「新しいのを持ってきたので、変えましょう」と視点を変えて言葉かけをしている。カーテンやノックをして、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時をどんな風に過ごしたいか、何が食べたいか、着たいか等、生活全般にわたり、意思を確認しながら「気配り」で自己決定ができるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	もともと住み慣れたお家で過ごしているように、リラックスしてご自分のペースでお過ごしいただけるように食事や入浴等一律にならないように気をつけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日、その時に着たい服をご自分で選んでいただきます。ご家族様の協力を得ながら衣服や化粧品を準備し、その方らしい過ごし方ができるようお手伝いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できることを無理なく行い、入居者様職員がともにホームの一員として協力し、日々の食事の準備や片付け等行っています。食事内容のアドバイスを入居者様からしていただきます。	朝の汁物は施設で提供し、テーブル拭きを手伝って頂いている。職員もできるだけ、一緒に食べている。職員さんと利用者さんが笑顔で食卓を賑やかしていた。おやつ、たこ焼き作り、果物をクレープの生地に乗せて食べる。春には砕いたタケノコを食べて匂を感じていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その時により、ご気分も変化し、食べられる形状や量も微妙に変化します。食べやすさやお好みに配慮し管理栄養士と協力しながら支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きやうがいのお声かけをして、無理のない範囲でご自分で口腔ケアをしていただきます。お気持ちに配慮しながら介助もして、必要に応じて歯科の往診もお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーに配慮しながら記録を通じて状況を把握させていただいています。ご希望に添い身体状況を考慮しながら安全にトイレでの排泄を目指しています。	トイレは3か所あり、車いすが通れるくらい出入り口が広い。排泄チェックシートを活用して、オムツからリハパンに変わった人もいます。夜間のみPトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の補給に気を付けています。体操を行ったり、医師や栄養士と連携しながら、食事内容も考えて自然なかたちで排泄ができるように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理なく入浴していただけるよう、お声かけを工夫したり、その時のお気持ちやタイミングによりお時間をずらしたりしています。	入浴は週2回。通所リハビリのバスチエアを利用する場合もある。浴室内は、浴槽が真ん中に配置されていて、安全面に配慮した介助と、暖房完備で温度調整をしている。入浴を拒否した方に「美味しいごはんが待ってるから」、「息子さんに頼まれているから」と言葉かけをした。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	もともと家で使われていた慣れた寝具を利用していただくようにしています。健康に配慮しながら、お好みに合わせた使用ができるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	情報の保護に気をつけながら、ファイルにお薬の一覧、内容を記したものをまとめています。随時薬剤師と連携しながら、確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手先の動きが十分でなくても、お気持ちに配慮しながら、無理なく作業を職員といっしょに行っていただきます。実際に作業が難しくてもアドバイスをいただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策をとりながら、周囲の状況に気をつけながら、ホームの前に出る等、閉じこもることのないように気をつけています。植木やお花が眺められる環境をつくり、気持ちよく過ごしていただけるようにしています。	商店街の方から市に参加し、露店、ダンスなどを遠目に見に行った。春には、近隣の幼稚園の花見に出かけ心躍らせた。夏場には、朝顔の水やりを行い、朝顔との挨拶から一日の日課が始まっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	せっかく近くにお店があるのにお買い物がいけない状況になっています。併設の病院の自動販売機で好きなジュースを買ったり散髪代をご自分で支払っていただいたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お電話を取り次いだり、お手紙を代読したりして、交流が継続できるようにしています。情報の保護に気をつけながらもとのご近所の方等との交流ができるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物自体が広くつくられており、天窓があり開放的になっています。夏場はパラソルを使用する等調光にも気をつけて、気持ちよく過ごしたいだけのように努めています。	リビングは広くて、天窓から暖かな光が差し込み、利用者を元気づけている。夏場はパラソルを出して、日差しを緩めて、季節感を味わっている。利用者は朝のコーヒータイムを楽しんでいて、ホットした笑顔で過ごしていた。室内の温度調整も出来ていて過ごしやすい環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建具、ソファ、机の配置を工夫し、もともとの広い空間を生かして、気持ちよく他者との交流ができたり、プライバシーが守られる空間づくりをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様とよく相談しながら、お家で使っていた家具を置いて、使い慣れたものに囲まれる等リラックスしてお過ごしいただけるようにしています。	エアコン、ベット、タンス、床頭台が備えつけられ、扉は広く、車いすも通りやすい。旦那様の写真を飾っていたり、丸亀城へ行った時の笑顔で写っている写真が飾られていた。使い慣れたラジオを持ち込み、奏でられる音で心を落ち着かせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	住空間の雰囲気や調和を考えながら、浴室やトイレ等の場所がわかりやすいように表示をしています。安全に気をつけて、できるだけご自分で好きな場所、必要なところへ移動できるようお声かけ、手すりの設置をしています。		